

すくすくみどり

No.18 札幌の気候に適した植物選び

- 新たな札幌の街並の創出へ -





目 次

はじめに	1
札幌の気候	2
植物と気温、植物と雨	3
園芸植物とヨーロッパ	4
札幌にあった植物選び	5
札幌の環境にあわせた管理	7
室内や庭での植物選び	9
冬の室内	9
ベランダ、窓辺	11
庭	13
壁面	17
財団法人 札幌市公園緑化協会の 環境マネジメントシステム	18
札幌市都市緑化基金	20
第39回緑の絵コンクール 大賞作品	22
第17回緑と花のフォトコンテスト グランプリ作品	24
平成17年度札幌市都市緑化基金事業報告	26
緑の相談	28

はじめに

私たちが、国内であれ外国であれ旅行に行きますと、自分達の住んでいる街とは違う、独特の雰囲気を感じることができます。それは、そこに住む人たちの生活の息づかいであったり、歴史を感じさせる建物であったり、海の色や空の色など様々あります。さらには、そこにある木々や草花も、私たちに異なる地にいることを強く感じさせてくれます。

札幌の住宅は本州と違い瓦屋根でなく、住宅の屋根一つとっても札幌が雪国であることを教えてくれます。

街の雰囲気は、その地を包む気候によって作り出されてきたといえるのではないでしょうか。

少なくとも、植物はそうでしょう。山や平原に生える自然の植物はもちろんのこと、身近に植えられた植物も先人達が気候にあわせ選び抜いた結果、特徴あるものとなつたのだと思います。

近年、園芸店でみかける植物の種類は増え、庭先の植物も多種多様になっています。私たちは植物が立派に育ってくれると素直にうれしくなります。そして、立派に育てるには気候にあった植物を選ぶことがとても大切です。

園芸とは、その植物の持つ潜在能力を最大限に発揮させる行いだと思います。そのために、気候にあった植物を選ぶことは第一の作業であると言えます。植物は、私たちそれぞれが個性を持つとの同様に、それぞれ特徴を持っています。古くから栽培されてきたオモト、イワヒバ、ツバキなどの古典園芸植物も、本州の気候にあったからこそ発展、継承されてきたのであり、その一方では気候にあわない数多くの植物が消えていったに違いありません。

札幌は、本州と比較して独特な気候の地であります。その環境を理解し、植物を選ぶことは、植物を立派に育てることにつながり、また札幌ならではの独特な街並や景観づくりにもつながることになると思います。



ヨーロッパの街並



アメリカの街並



札幌の洋風の街並

札幌の気候

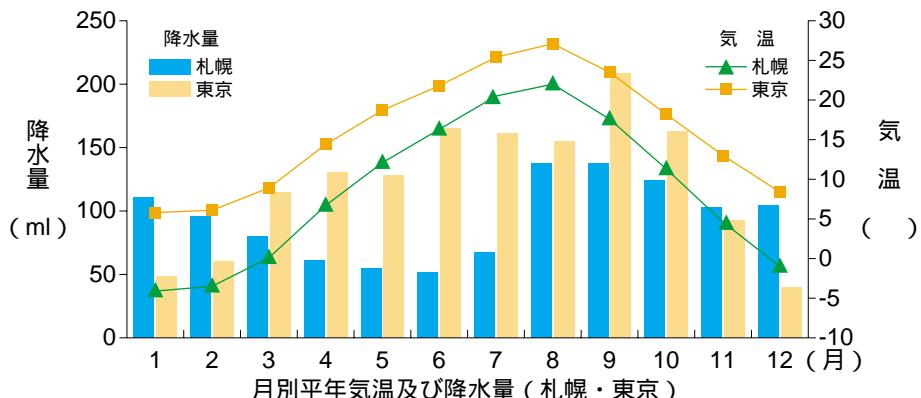
植物の生育に最も影響を及ぼす要因は、温度と水です。札幌の気候について、気温と降水量からみてみましょう。

札幌は、北緯 43° 、東経 141° に位置しています。年平均気温は、 8.5°C で、東京より 7°C 以上低くなっています。植物の生育に最も影響する5~8月の札幌の最高、最低気温の平均は、それぞれ 22.3°C 、 13.9°C で、東京と比較して、それぞれ 4°C 、 6°C 以上低くなっています。特に、日中より夜の温度差が大きくなっています。冬季は時に -20°C 近くまで気温が下がりますが、雪面より高い樹木類を除き、多くの植物は雪の下で冬を過ごします。雪の下は、意外なことに 0°C 近くに保たれており、積雪は植物を寒さから守ってくれています。積雪により、多くの植物を育てることが可能となっています。

降水量（降雪量も含む）については、札幌の年間降水量は、 1129mm と東京の8割程度となっています。冬季は札幌の降水量（降雪量）が多いのですが、その他の時期は、東京より少なくなっています。特に、6~8月は東京の半分以下の降水量であり、植物の生育期において札幌の降水量は少ないと言えます。

植物の生育期についてみると、札幌の気候は、夏期冷涼で降水量の少ないヨーロッパ（北欧と南欧を除く）の気候に非常に似てあります。

のことからも、札幌は独特の園芸を発展させる潜在能力を持っていることが伺い知れます。



植物と気温、植物と雨

植物が生長するためには、その植物にあった温度が必要です。ほとんどの植物は、一年中あるいは冬を除く期間を屋外で過ごします。従って、その土地の気温は園芸を行う上で極めて重要な要素です。

ある植物を、生育適温と5℃違う温度で栽培すると、生育が倍以上違ってくることはよくあります。また、病気を起こしやすくなり、管理が非常に困難となります。特に、温度が高い場合にその傾向が強くなります。

水分は植物にとって必要不可欠なものです。しかし、幸いなことに、水が不足した場合は与えることができます。重要なことは、必要以上に水を与えないことです。過剰な水分は植物に様々な病気を引き起させます。従って、降水量の多い地域では栽培できる植物の選択肢がより限られると言えます。

具体的な例を挙げてみましょう。

チューリップは春の訪れを告げる代表的な植物ですが、本来、チューリップは中央アジアやヨーロッパの比較的高地、主にステップ気候帯に属する夏期冷涼で乾燥した場所に自生しています。夏場に乾燥するため、球根のみで夏を過ごすのです。東京では気温の高さと梅雨のため、毎年新しい球根を購入しないと開花させることができません。しかし札幌であれば、冷涼な気温下で球根が肥大し、翌年も再び開花します。クロッカスや多くのスイセン、アイリス、スノードロップ、ヒヤシンスなども同様のことが言えます。

青い花といえばデルフィニウムを連想する方が多いと思いますが、デルフィニウムは主にシベリアに自生しています。シベリアはとても寒さが厳しく、夏でもとても涼しいところです。生育適温は15~20℃と低く、夏の暑さを大変嫌うので、高温多湿となる東京では夏場に枯死してしまいます。また、鮮やかな青色を発色させるためにも涼しい温度が必要なので、札幌でこそデルフィニウムの本当の青色を見ることがあります。

パンジー やキンギョソウ、ペチュニアといった一年草扱いのほとんどの植物は、夏場の高温多湿を嫌います。東京などでは花壇に植えられた一年草の多くが梅雨時や夏場に枯死してしまうため、何回も更新を行わなくてはいけません。しかし札幌では、夏を通じて秋までの長い期間これらの植物を楽しむことができます。一年草の多くも、札幌でその潜在能力を発揮することができるのです。

このように植物の生育は、我々の努力では埋めきれない要素である気温や降水量と密接に関連しています。そして、札幌で本領を發揮し立派に育ってくれる植物の多いことに気が付くのです。





園芸植物とヨーロッパ

プラントハンターという言葉をご存知ですか。プラントハンターとは、その昔、大英帝国が世界各地へ派遣した植物採集人のことです。彼らは、食料や香料、薬、繊維用等の有用植物とともに、観賞植物の採集も盛んに行いました。イギリッシュガーデンがこれ程までに有名となったのはプラントハンターがいたからこそとも言われています。

現在に至るまで世界の園芸の主流はヨーロッパであり、流通する植物もヨーロッパの気候・風土に合うものが主流を占めています。私たちが店頭で目ににする植物もこれらの植物がたくさんあります。ヨーロッパと気候の似る札幌は、現代園芸の主役を担う気候を持つ地域であることが伺い知れます。



札幌にあった植物選び

植物を選ぶにあたって

私たちは気に入った花、美しいと思った花を買って育てています。植物の好みは人それぞれですが、美しいということに加え、もう一つ、札幌で育てやすいものなのか、札幌でこそ真価を発揮するものなのかという基準を加えると植物栽培の楽しみが広がると思います。

札幌の気候及び室内環境を、植物の生育からみて簡潔にまとめる

- ・夏は涼しく、昼間と夜間の温度差（日較差）が大きい。
- ・夏の降水量は比較的少なく、梅雨のような降雨の集中がみられない。
- ・夏は晴天日が多く、日射量も多い。
- ・冬の気温は低いが、積雪のため地表付近は0 度程度に保たれている。
- ・室内の気密性は高く、冬でも非常に暖かい。

となります。

私たちが手にする多くの植物は盛んに品種改良され、野生の姿とはかなり違っています。しかし、その性質は野生のものからほとんど変わることなく受け継がれていますから、植物を選ぶにあたっては植物の原産地の気候を知ることが重要となります。気候を知ると、植物の生態がその気候に適応していることにも気付きます。そして、原産地の気候が札幌の気候に合ったものなのかを判断します。逆に言うと、札幌に合う気候を意識し、植物を選択することになります。

多様な原産地

世界には様々な気候の地域があり、同じ地域でも標高によって気候は全く違ってきます。ここでは、札幌の気候に合った植物を原産する地域とその特徴を紹介します。

ヨーロッパ、地中海沿岸地域

ヨーロッパの多くは西岸海洋性気候に属しています。夏季冷涼で降水量は少なく、30 の高温では生育しない植物がほとんどであり、多湿に弱い性質を持つ植物が多く分布しています。セイヨウノコギリソウやエリンギウム、ジギタリス、ジャーマンアイリス、エリカの仲間などが自生しています。

ヨーロッパ南部及びアフリカ北部の地中海沿岸地域は、地中海性気候に属しています。夏季の雨が非常に少なく、球根植物や一年草が多く自生しています。多くの耐寒性秋植え球根植物のほかキンセンカ、ヤグルマギク、キンギョソウといった一年草など、長雨に弱い植物が多くみられます。

いずれの地域も冬季の気温は札幌より高く耐寒性のない植物もあるものの、多くは積雪の中で無事越冬し、良好な生育を見せてくれます。特に、山地や高地に自生する植物は、耐寒性が強く、暑さに弱いため、札幌の環境が適しています。

北米

アメリカは東部が西岸海洋性気候、中央部が降雨の少ないステップ気候、西部が地中海性気候となっています。東部の海岸部を除く地域は降水量が少なく、多湿に弱い植物が多い傾向にあります。気温のより低い北部（北東部、北部、北西部）に、より札幌での栽培に適した植物が自生しています。また、ロッキー山脈周辺に自生する植物の多くは高温にとても弱いため札幌の環境に適しています。



アリウム、種々のデルフィニウム、リアトリス、モナルダ、ストケシア、種々のアイリス、ルビナスなど札幌の宿根草花壇を彩る植物が多くみられます。

ヨーロッパや北米地域原産の植物には、わずかな量でも苗物として生産されている植物が数多くあります。これらの地域は、本州など高温多湿な気候では生育できず札幌でこそ栽培でき、かつ札幌の街を植物で特徴付けることが可能な植物の宝庫といっても過言ではないでしょう。



熱帯、亜熱帯高地

熱帯、亜熱帯地域の高地は夏期冷涼で冬季温暖な常春のような気候です。これらの地域には、耐寒性はないものの夏の暑さを嫌う植物が多く自生し、球根ベゴニアやダリアといった球根植物のほか、フクシアやセントポーリアを始めとするイワタバコ科植物といった鉢栽培に適した植物がみられます。また、多くの洋ランも熱帯高地に自生しています。パフィオペディルムやリカステ、ミルトニア、オドントグロッスマ、マスデヴァリアなどは暑さを嫌うものが多くあります。



温帯高地

高山帯には冷涼な気候でしか栽培できない

高山植物が自生し、札幌での栽培に適した植物が多くあります。



以上のように区分けしましたが、実際には世界の気候はもっと複雑で、同じアメリカの植物でも耐寒性は大きく変わります。南アフリカには札幌向きのペラルゴニウムもあれば、ラケナリアやゲイソリザなど全く不向きな植物もあります。

植物の自生地を調べても慣れないうちは、札幌に適した植物なのか判断に迷うことがあるかもしれません。しかしこういった作業を続ければ、札幌に適した植物の地域を記した自分だけの世界地図が徐々にできていき、植物選択の幅は広まり、個性的な庭づくりの上でも大いに役立つことでしょう。

立派に育つ植物を自分で見つけることも、園芸の一つの楽しみではないかと思います。

札幌の環境にあわせた管理

多くの方は植物を栽培する場合、書籍や雑誌を参考にされるでしょう。しかし残念なことには、内容の詳しく丁寧なものほど関東の気候を基準に説明されています。そこで、その記載内容を札幌向けに自分でアレンジすることをお勧めします。それほどの知識は必要ありませんし、管理方法を自分で考え、うまくいった時の喜びはひとしおです。自ら考え実践する主体性ある園芸は、園芸の楽しみにさらなる深みをもたらしてくれることでしょう。

自分でアレンジする場合、その植物の性質（特に温度要因）を正確に把握しておくことが大切です。そして、関東の気候を理解し、札幌向けに変えていきます。

ではフクシア（ボクシャ）を例にして、アレンジしてみます。



フクシアの性質を確認する

フクシアは、生育適温が20～25度で、5度を下回ると生育が止まります。30度以上の高温に弱く、また霜にあうと枯死する危険のある非耐寒性花木です。適温下で十分な光があれば、開花し続ける四季咲き性の特徴を持っています。

栽培書にみられる関東を基準とした栽培方法

4月に入ると屋外栽培が可能です。

水と肥料を十分に与えると、5～6月半ばにたくさんの花を咲かせます。しかし、その後は暑さのため花数は減り、時には枯死に至ることもあります。夏場の暑さをしのぐため、6月半ば過ぎに強く切り戻したり、日陰で管理したりします。弱った株に肥料は与えず水のみとします。枯死が心配な場合は、5月に挿し木繁殖を行います。秋に再びたくさん花を見せますが、11月を過ぎると室内に取り込み、越冬させます。

栽培書には以上のような記載がされています。

札幌の気候にあわせたアレンジ

フクシアは、霜にあわせたくないでの、屋外へ出すのは天気予報と相談しながら決定しますが、おおむね5月下旬から6月初旬となります。

生育期間中は、水と肥料が十分必要となるので与えます。夏場も、猛暑時を除いては冷涼なので、切り戻したり日陰へ取り込んだりする必要はないとの判断できます。従って、同じ管理を続けて良いでしょう。また、高温による枯死対策のために挿木する必要がないと予想できます。夏から秋遅くまでの開花が期待できます。霜が心配となる10月下旬には室内へ取り込みたいところです。関東では室内で開花させ続けることがあるようですが、札幌では十分な光量が期待できません。そこで、涼しい部屋にて生育を止め越冬させる方法が考えられます。草姿を整えたいので剪定を行いますが、生育期間は関東に比較し短いため、室内へ取り込む時、または屋外へ出す時のみとなるでしょう。

ざっと、このような管理が推測できます。植物の性質を確認しておけば、関東で行う剪定や鉢の取込み、挿し木繁殖の意味も理解することができますし、札幌にあわせた管理を予測することは難しくありません。

ただ実際には、剪定の強弱、肥料の濃度や水やりのタイミング、夏場の鉢の置き場所など、微妙な点については経験によって覚えていくことになります。

十分な知識は、経験を積み重ねるための大きな助けとなります。そして経験は知識を実際的でより深みのあるものしてくれます。知識に経験がともなった時、その植物を十分に理解したと言えるでしょう。



冬の室内

植物の選択基準

北国の室内園芸の特徴

半年もの長い期間雪に閉ざされる北国では、室内で植物を楽しむ機会が本州暖地より長期間に及ぶことから、とくに冬期間の室内での越冬が重要になります。

近年、北国においては高断熱、高気密構造の住宅が一般的になりました。そのため家の各部屋の室温は一日中保たれ、とくに団欒を過ごす茶の間などは、道外に比べて高めの室温が確保されています。一昔前の北国の生活環境下では、常時高温を要求するコチョウランを室内で栽培するのは極めて難しいものでしたが、現在の住宅環境下では多くの家庭でこのような高温性の洋ランがごく普通に楽しめています。逆に暖房による高温に弱く、日光を必要とするシクラメンやプリムラ類などは置き場所を探すのに苦労してしまいます。

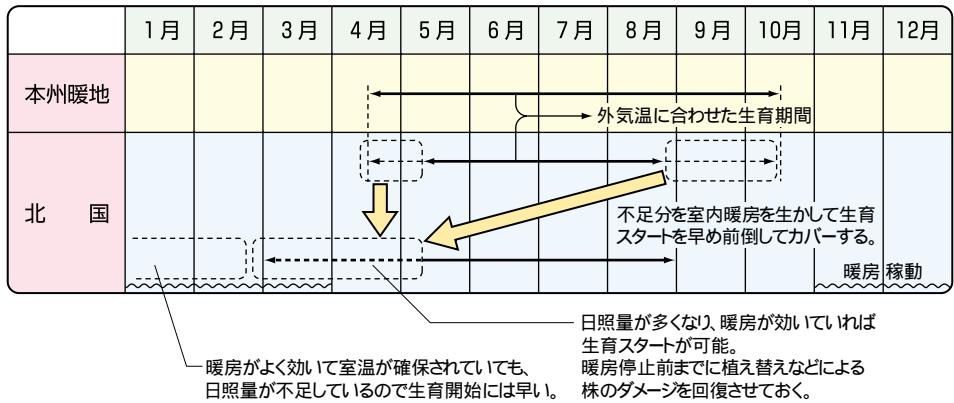
しかし、各家の住宅構造やそこに住む人の生活スタイルによって、室内環境には大きな違いがあります。一日中暖房を高めに設定している家、逆に低めに設定している家、夜間に暖房を停止する家など様々です。また、同じ家であっても各部屋の使い方によりその環境は変わってきます。各環境を把握した上で、適する種類を選択し、それに即した栽培方法を考慮すべきでしょう。

本州と異なる生育サイクル

高めに温度設定された室内の場合は、室温の確保、安定度の面から考えると正によく制御された温室と同程度を考えることもできますが、暖房の効いた室内は極端な乾燥状態になり、乾燥に弱い種類は生育が低下してしまいます。曇天日が多い冬期間は、日照不足と室内の乾燥が重なり、一年でいちばん過酷な環境となります。

このことから、北国では入室前の秋までに、長い冬を乗り切るために体力を十分につけておくことが重要になります。とくに北国の秋の訪れは本州より1ヶ月から1ヶ月半も早いため、早めに生育を開始して、生育期間には適切な栽培管理を行うことが重要になります。

一般的な室内植物の生育期



室内環境の違いと植物選択

昼夜とも暖房を効かせてほぼ高温を維持している場合

環境：一日中高温、乾燥が激しい。

適する植物：高温、乾燥に耐える鉢花や観葉植物など。

マンションや高気密の住宅などで最も一般的な環境でしょう。温度が高めに保たれることから最も有利な環境と思われがちですが、多くの植物にとっては高温乾燥の厳しい環境になります。加えて冬期の低照度により軟弱な成長になります。夜間だけでもやや低めの室温に設定したり、こまめな霧吹き、置き場所の工夫など、できるだけ空中湿度を高めることが必要です。ある程度の空中湿度が保たれれば高温を好む熱帯性の種類などにとって、温室のような好環境になる可能性もあります。

室温を低めにしたり夜間のみ暖房を停止する場合

環境：昼間はやや高温が維持されるが夜間はやや室温が下がり、一日の温度差が激しい。昼間の乾燥が激しい。

適する植物：多くの鉢花や観葉植物など

省エネ、健康の意識からあまり室温を上げない、また夜間は暖房を止める家庭も多くなっています。人間と同様に多くの植物にとっても前述の高温乾燥よりは好ましい環境と言えます。生育最低気温を下回らないように置き場所などに注意し、控えめな灌水を心掛け低温による根腐れを回避します。

暖房を入れていない場所の利用

環境：一日中低温。

適する植物：温帯性の花木、冬から春咲きの球根類など。

越冬のみを目的にした休眠中の植物や、高温を必要としない温帯性の植物の管理場所として、極端に低温にならず暖房の影響をあまり受けない場所は有効です。近年の高気密の住宅やマンションではこのような場所を確保するのが難しくなっていますが、このような場所があれば栽培できる植物の種類の幅は広がります。

冬の北国の室内環境

昼夜とも暖房を効かせて高温を維持している場所
(居間や茶の間など)



暖房を入れていない場所
(客間や玄関など)

室温を低めにしたり夜間のみ
暖房を停止する場所(寝室など)

お勧めの植物



ユーチャリス

Eucharis grandiflora ヒガンバナ科

南米コロンビア、ペルーのアンデス山地に自生する常緑性球根植物。結婚式のブーケやコサージュに使用される。1年を通して20~25℃の温度を好み、弱光線下でよく育つので室内栽培しやすい。

12~1月にかけて純白のスイセンに似た花を咲かせる。

通信販売で球根の入手ができる。 の環境に適す。



マザーファーン

Asplenium bulbiferum チヤセンシダ科

インド洋のモーリシャス諸島原産のシダ植物。オオタニワタリなどと同じアスプレニウム属の植物。多くのシダ類は高温乾燥に弱く、葉先が枯れやすいが、本種は葉質が厚く痛みにくく濃緑色の葉を長い間保つ。低温にも比較的強い。 の環境に適す。



ベランダ、窓辺

植物の選択基準

ベランダや窓辺を溢れんばかりの花で飾っている場面は、ヨーロッパではよく見られる光景です。とくにスイスやドイツ、オーストリアなどのアルプス地方の観光地では、古い木組みの建物との組み合わせが欠かすことができないものになっています。ベランダや窓辺を飾る植物は、道行く人から見られることも大きな目的になるため、公共性が高いとも言えます。ヨーロッパの観光地では窓辺で美しい花を育てるのは市民の義務であり、適正に管理をしないと罰金を科せられる地域もあるほどです。

始めは各戸の外観に調和する種類を選択することから、それを発展させて地域の景観を意識した統一感のある街並に結びつけたいものです。

多くの場合ベランダや窓辺は比較的日当たりが良いので、花ものが主体になります。下から見上げて鑑賞されることから、ボリュームの出る、放射状に伸びる匍匐性の種類が適します。ヨーロッパではアイビーゼラニウムが主役になっており、近年では日本で育種されたペチュニアも多く使わ

れています。どちらも高温多湿に弱く、ヨーロッパでは春から秋に雨が少ないので株傷みが少なく、長期間よく生育します。日本では、梅雨のない北国でのみヨーロッパと同様の生育が期待できます。

やや日当たりの悪い所では、半日陰を好むベゴニア類や観葉植物のヘデラなどを利用することができるでしょう。また、マンションのベランダは貴重な庭代わりになり、バラやハーブ、野菜を大きめの容器で栽培することも可能です。いずれも風通しが良いため病害虫の発生も少なく、適切な管理を行うことにより、庭植えより好結果が期待できる場合もあります。

また、ヨーロッパの窓辺を飾るプランターはウインドーボックスと呼ばれ、高さが18cm程度、幅は30cmから1.5m弱までといろいろあります。色は濃緑や茶系のものが多く、日本でよく見られる白色のものはほとんどありません。茎葉が茂る前も容器だけが目立つことはありません。道行く人から見られる機会が多いことから、木製の鉢カバーを利用するのも一つの方法ですが、この場合落下しないようしっかりと固定します。



お勧めの植物



アイビーゼラニウム

Pelargonium peltatum hybrids フウロソウ科

茎がツル状に伸びるゼラニウムの系統でツタバゼラニウムの和名がある。原種は南アフリカのケープ東南部海岸に分布する。本州暖地では高温と雨が多いためになかなか育ちにくいが、札幌では春から秋まで途切れることなく開花し、弱ることなく育てることができる。



フクシア マゼラニカ

Fuchsia magellanica アカバナ科

チリ南部からアルゼンチンに分布し、自生地では3m程になる花木。斑入り葉や黄葉、白花など多数の変種があり、どれも観賞価値が高い。耐暑性は低いが、耐寒性は本属中最もあり、札幌でも屋外で越冬する場合がある



庭

- 庭 木 -

植物の選択基準

庭木は一般的に、庭の中で最も大きく、長生きであることから、最終的には庭でいちばん大きな要素になり、木の選択と配置のデザインは大変重要になります。無計画に気に入った苗木を購入したり、他家から貰った庭木を植えたりしているうちに、それらが成長していくか雑然とした庭になっていることが多いようです。

北国では本州よりも比較的庭の面積が大きく確保できるものの、限られた庭面積に庭木を植えるには、慎重な選定と位置決めが要求されます。木の外観、個性的特徴は重要ですが、庭土、気候、環境がその木に適しているかどうか、そして、成長率と最終的な高さ、広がりも十分考慮する必要があります。

どの木を選択するかの前に、まず木を植える目的を明確にする必要があります。庭の一角に遠くの山が見える場所では、その山を隠すような大きな樹を植えないで借景として活かした方が良い場合もあり、逆に隣家の壁や窓などが気になるようなら、樹木で遮蔽することになるでしょう。また、家の北側に建物がない所では、冬の寒風を防ぐように防風を目的に常緑針葉樹を植え、強い西日が当たる所では家の近くに落葉樹を植えて日陰を作るのも良いでしょう。この他、花、果実、紅葉を楽しみたい、記念樹として長く楽しみたいなど、どちらかというとシンボルツリー（象徴木）ス

ペシメンツリー（独立木、ポイント木）的な目的も多くあります。

次に具体的な樹種の選択になります。北国では耐寒性が強い種類を選ぶことが最も重要になります。安全に越冬できる樹種を知るには、近所の庭、公園、植物園などで生育状態を見ることがいちばん確実でしょう。樹形や年数を経た大きさも知ることができます。当然その地方の山野に自生するものは越冬しやすく、外来種では、北ヨーロッパ、北アメリカ北部、シベリア、中国北部、カラフト、カムチャツカなど、北海道と同様に厳しい冬をもつ地方に分布する樹種が強いものです。なお、近年は以前にはなかった湿雪による枝折れの被害も多くなっていることから、積雪に対する耐性も重要な選択肢になります。



北海道の庭

お勧めの植物



キングサリ

Laburnum anagyroides マメ科

ヨーロッパ中南部原産で、英名でゴールド チェーンと呼ばれる。ヨーロッパでは非常にポピュラーな春の花木で、フジに似た明るい黄花を付ける。高温多湿に弱く、夏涼しいのを好む。病害虫に強く、特別な剪定も必要ない。



ナツツバキ

Stewartia pseudocamellia ツバキ科

宮城県以西の本州、四国、九州に分布する落葉高木。別名シャラノキ。仏教で有名な沙羅双樹はフタバガキ科の熱帯樹で別の植物。幹はすべすべしていて、ツバキに似た白い五弁の花は清楚で美しい。自然形で育てるのが基本で、樹形は美しい。



- 草 花 -

植物の選択基準

前述のとおり、庭や花壇で使われる一年草や宿根草の多くは、北国札幌でこそ最大限の魅力を發揮できます。

しかし、限られた面積の庭で利用するには、庭木と同様に目的を明確にして、植え場所や管理手間などの条件を考えて選択すべきでしょう。日当たりなどの条件が合わずに弱った株や、花色や草姿が壁色や背景木と不釣り合いで、周りの景観を低下させている場合なども多く見られます。

庭で使われる草花は大きく分けて、冬も越冬して毎年開花する耐寒性のある宿根草と、冬は寒さのため枯れてしまう多年草を含め春から秋まで屋外で栽培する一年草などの花壇用植物の二つに分けられます。

屋外で越冬する宿根草は、チューリップやスイセンなどの耐寒性のある球根類も含めて、ほぼ全てが一季咲きの植物です。開花は長期間に渡らないものの、各々の季節感を与えてくれます。また、条件が良ければ毎年増えていきます。ある程度の長さと広さがある植え床が確保できれば、様々な種類を組み合わせることにより、季節ごとの変化を楽しむ植栽が可能です。しかし、多くの場合は樹木の間やアプローチ周辺の限られたスペースで利用することになります。この場合は、単体での鑑賞になるので、開花期以外の草姿も重要な要素になります。長期間葉が鑑賞できるハーブ類や、木の下などやや半日陰地でも育つグランドカバープランツ（地被植物）などが有効になります。

耐寒性のない多年草や一年草は、花のない時期の宿根草をカバーすることができます。このようにプランター や整型花壇とは異なる庭植えでこれらの花壇用植物を利用するには、花壇用として改良された矮性種よりも、多少草丈が高くなり野趣がある種類を選ぶと庭全体との調和が図れるでしょう。これらの花壇用植物が春から秋遅くまで絶え間なく連続的に開花、生育するのは、まさに北国札幌の気候があってからこそ可能になるのです。



お勧めの植物



クナウティア マケドニカ

Knautia macedonica マツムシソウ科

バルカン半島中部およびルーマニア東南部に分布する耐寒性のある宿根草。草丈は25~50cm程になり、スカビオサに似た赤花を付ける。花期が長く、初夏から秋まで連続的に開花する。隙間を埋める植物には効果的に利用できる。こぼれ種で増える。



カラミンサ ネペタ

Calamintha nepeta シソ科

ヨーロッパ南部から地中海沿岸に分布する耐寒性の強い宿根草。葉には強いミントの香りがあり、7月から晩秋まで、白色や淡紫色の小さな花を咲かせる。40~60cmの草丈にこんもりと茂り、どんな植物とも合う。コンテナ栽培にも適す。



アロンソア

Alonsoa warscewiczii ゴマノハグサ科

ペルー原産の半耐寒性の多年草。一年草として扱う。和名ベニコチョウ。赤または橙色の可憐な小花が秋遅くまで長期にわたって次々に咲く。高温を好み、暑い夏にも弱らない。摘芯することにより茎数多く、コンパクトな草姿になる。



ネメシア デンティクラタ "コンフェッティ"

Nemesia denticulata cv. Confetti ゴマノハグサ科

南アフリカ原産の多年草。耐寒性は比較的あり、条件がよければ札幌の屋外でも越冬する場合がある。キンギョウソウに似たピンクの花を多数つけ、晩秋まで連続的に開花する。花壇の他、プランター寄せ植えにも適する。



植物の選択基準

近年、ビル壁面の熱による地球温暖化を防ぐ効果があることから、壁面緑化が注目されるようになってきました。本州より終日暑くならない北国でも、壁面を緑化することによって真夏の建物の温度上昇を防ぐことができ、何より道行く人の目に潤いを与え、景観の向上に役立ちます。

秋に紅葉して落葉するナツヅタ (*Parthenocissus ricuspidata* ブドウ科) は、古くから壁面に利用されています。ツル性植物には、ナツヅタやウコギ科の常緑のセイヨウキヅタ、ツルアジサイのように建物に貼り付く気根をもつもの、クレマチスのように支柱の周りに茎を絡ませて上るもの、そしてツルバラやロニセラ (スイカズラ) のように、他の植物の間に枝を伸ばして、自分自身を支えるものがあります。気根で自ら壁面を上るもの以外は、壁面にワイヤーやネットを張ったり、トレリスを取り付けるなどすることにより、より広範囲のツル性植物が利用できます。

種類の選択には生い茂る葉を鑑賞を目的にするか、花も楽しみたいかを決め、さらに日当たりなどの植え場所の条件に適するものを選び、覆いたい壁面の面積に適う生育が期待できる種類を選びます。

お勧めの植物



クレマチス

Clematis キンポウゲ科

ウィティケラ、テクセンシス系は地際付近より伸び出した当年枝に花芽をつけるため、凍害を受けにくく、比較的の低温でも旺盛に生育するため北国に適した系統。

モンタナ系は品種により8mにまで伸び、夏の高温に弱いため、北国の壁面を飾るにふさわしい系統。ただ、前年枝に花芽をつけるため、北風の強い場所は避ける。



ナツユキカズラ

Polygonum aubertii タデ科

中国西部原産の落葉つる性低木。枝が多く出て小枝に白い花を多数つけ、涼しげ。和名は夏に雪が枝に積もったように見えるところに由来する。耐寒性も耐暑性もありとても丈夫で、フェンスやトレリスにはうってつけの植物。





財団法人札幌市公園緑化協会の 環境マネジメントシステム

財団法人札幌市公園緑化協会は、ISO14001の認証を取得いたしました。

当財団は、札幌市都市緑化基金の造成・管理、この運用益による市内の民有地緑化及び緑化思想の普及啓発事業、並びに市内の公園等の管理運営を行っています。

これらすべてに関わる事業活動及び製品において、JIS Q 14001 : 2004 (ISO14001 : 2004) に適合した環境マネジメントシステムに関する基本的な事項を定め、実施し、維持し、改善し、適切な環境保全活動の推進を図ることを制定の目的といたします。



2006年度 環境目的

事業部門

- ・一般廃棄物の発生量の削減
- ・植物系廃棄物を資源化し再利用を図る
- ・緑化及び自然環境に関する普及啓発のための講習会及び公園観察会の参加者の増加を図る

オフィス部門

- ・電気使用量の削減
- ・事務用品のグリーン購入率の向上
- ・緑化及び自然環境に関する普及啓発事業の実施



MSA-ES-512



JAB
EMS Accreditation
RE 019

財団法人 札幌市公園緑化協会環境方針

基本理念

地球誕生以来、長い年月をかけて地上の酸素をつくり、また、生物の誕生と多様な生物の食物連鎖の要として地球における生命の営みを支えてきたのは植物であり、「緑」です。私たち人間が生活を営む社会も、この「緑」を抜きにして語ることができません。

人間社会は、産業革命以降、大きく変化し、特にこの数十年間に科学技術の進歩とともに社会全体が急速な発展をとげ、その結果、私たち人間の生活に機能的で、かつ物質的な豊かさを与えてくれました。

しかし、人口の増加や人間活動の増大など、社会の発展と相まって、次第に資源やエネルギーを浪費しながらの大量生産・大量消費が、地球環境のもつ許容量を越え、地球温暖化、砂漠化、酸性雨、海洋汚染、熱帯林の減少、野生生物種の減少など、環境問題を深刻化させています。

今すぐ私たちが環境問題を真剣に考え、行動を起こさないと、次世代の生存を危うくしてしまいます。

財団法人札幌市公園緑化協会は、地球的規模でみると瑣末な組織ではありますが、かけがえのない地球の構成員として、札幌市の公園緑地の良好な管理運営と緑化の普及啓発を図り、利用する市民に快適な生活環境づくりを提供するために、事業を行い、「緑」の創出・保全を図り、地球環境の維持・改善に最大限努力いたします。

この運営の基本的仕組みとして、環境マネジメントシステムISO14001を活用いたします。

環境方針

財団法人札幌市公園緑化協会は、「緑」を通じて快適な生活環境づくりに寄与していくうえで、日々の事業活動において環境負荷の少ない社会の形成に努めます。

1 環境経営の推進

環境マネジメントシステムを継続的に改善し、経営管理の一環として環境経営の推進に努めます。

2 環境マネジメントシステムの継続的改善

環境目的・目標を定め、その達成に努力するとともに、定期的な見直しを行うことにより、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図っていきます。

3 環境意識の啓発

職員をはじめ、事業活動に関わる人々のほか、広く市民に対して、地球環境の大切さを啓発し、環境保全に対する意識の向上に努めます。

4 環境の維持・改善

事業活動とオフィス活動において、省資源・省エネルギー、廃棄物の削減に努め、また、環境に配慮した商品の調達と購入を推進し、環境負荷の低減、地球環境の維持・改善に努めます。

5 環境汚染に対する危機管理の徹底

事業活動に伴って生じる環境汚染及び事故を未然に防止するとともに環境関連の法令を順守し、環境汚染の危機管理を徹底します。

6 法的及びその他の要求事項の順守

環境側面に関係して適用される法的 requirement 及び財団が同意するその他の要求事項を順守します。

この環境方針は全職員及び財団のために働く全ての人に周知徹底するとともに、外部に公表いたします。

2005年12月21日

財団法人札幌市公園緑化協会

副理事長

土井一也

札幌市都市緑化基金

都市の緑は、私たちの生活に四季折々の季節感や心のゆとり、やすらぎ、うるおいなど、かけがえのない充足感を与えてくれます。

札幌市は、道路、公園などの公共施設の緑化をはじめ、市民の方々の協力を得ながら地域の緑化に努めて、現在、全国でも屈指の緑豊かな街になりつつあります。

しかし、街全体が緑と花と木陰に包まれた「ゆとりとうるおいのある街」を実現するためには、公園などの公共施設の緑だけではなく、個人の住宅や事業所の周辺など民有地の緑化が不可欠です。

札幌市都市緑化基金は、市民の皆様から寄附をいただいたお金を取り立て、その果実（利子）で民有地の緑化を進めていこうとするものです。

私たちの街札幌を次代の市民に誇れるより緑豊かな魅力ある街にするため、「札幌市都市緑化基金」の積み立てに市民の皆様の暖かいご協力を賜りますようお願い申し上げます。



都市緑化基金はこのような事業を実施しています

~ 平成18年度の各事業の募集については
「広報さっぽろ4月号または9月号」に掲載を予定しています ~

記念樹プレゼント

札幌市民を対象に、結婚、出産、新築などの人生の節目を記念する慶事に対して、ライラック、ツツジ、ウメなど10種類ほどの中から希望の苗木をプレゼントしています。応募は往復はがきで、返信用はがきが引換券となります。



ツツ苗の補助

対象：市内の住宅、事業所等の壁面、法面など。
補助数：植え込み予定の半数（最大15本まで）
申し込み：春秋の年2回。



フラワーポットの貸し出し

対象：市内の町内会、自治会、商店街などの民間団体
個数：1団体あたり30個以上100個まで
規格：70cm×24cm×20cm
貸出条件：3年間継続して設置してください。貸し出しの初年度のみ、培養土と花苗を1ポットあたり5株提供しますが、次年度以降は、利用団体において用意してください。
申し込み：年1回春のみ



第39回(平成17年度)

緑の絵コンクール

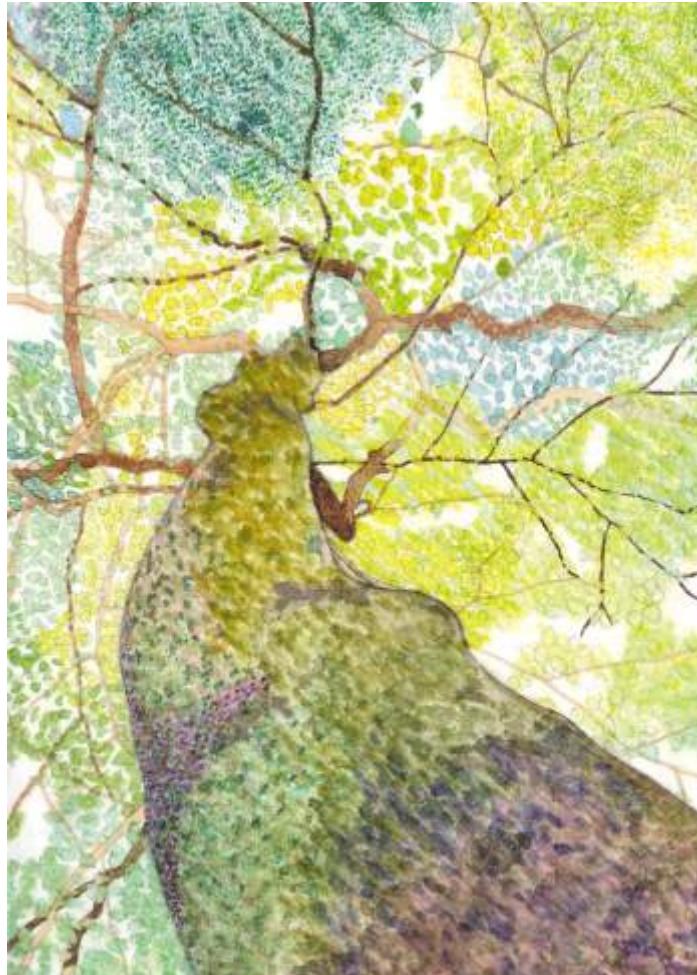


大賞作品

加藤 圭さん(札幌市立澄川西小学校 1年生)

第39回緑の絵コンクールは小学生の部では43校687点、中学生の部では16校317点、計1,004点の応募があり、審査の結果、小学生の中から加藤圭さん、中学生の中から梶田ゆうりさんの作品を大賞作品として選考しました。

緑の絵コンクールは、毎年、札幌市内の小学生・中学生を対象として札幌市環境局みどりの推進部と財団法人札幌市公園緑化協会の共催で実施しています。



大賞作品

梶田 ゆうりさん（札幌市立羊丘中学校 2年生）



グランプリ作品



作品名「公園夕景」

(モエレ沼公園)

撮影者 古平文男さん

- グランプリ作品審査講評 -

今回も優れた作品が数多く寄せられました。その中で最も優れていたのがこの作品です。

広大なモエレ沼公園のスケールをベースにカップルが噴水を見ている作品ですが、構図においての遠近表現の確かさ、そしてカップルの後ろ姿にマッチした黄昏時のロマンチックな色調の美しさに加え、今年の夏、まさに旬であったモエレ沼公園の夜の噴水を題材に選ばれたことも話題性が感じられグランプリ受賞につながりました。

おめでとうございました。

第17回緑と花のフォトコンテストには、四ツ切部門に85名211点、サービスサイズ部門に64名242点、計149名453点の力作が寄せられました。

四つ切り部門 優秀賞



作品名「桜咲く頃」
(百合が原公園)
撮影者 石山 輝子さん



作品名「太陽に向かって」
(滝野すずらん丘陵公園)
撮影者 村上 和子さん



作品名「雲よ動け！」
(サッポロさとらんど)
撮影者 板崎 礼子さん

サービスサイズ部門 優秀賞



作品名「子供の天国」
(川下公園)
撮影者 阿部 和夫さん



作品名「シンフォニー」
(サッポロさとらんど)
撮影者 板崎 礼子さん



作品名「青いトンネル」
(宮の沢ふれあい公園)
撮影者 笠置 比佐さん

平成18年度も第18回緑と花のフォトコンテストを実施し、札幌市内の公園や緑地における、緑や花の魅力・美しさ、公園でのひととき、自然とのふれあいなどを表現した作品の募集を予定しています。(応募締切: 平成18年8月末日)

平成17年度札幌市都市緑化基金事業報告

1 植樹等による民有地緑化事業

(1) 記念樹プレゼント

札幌市民の結婚、出産、新築、入学などの人生の節目のお祝いに際して、自宅の庭等で大切に育てていたただくことを目的に、事前応募による苗木のプレゼントを行いました。

配付月日　　春季：平成17年5月7日（土）・8日（日）
秋季：平成17年10月15日（土）・16日（日）

配付場所　百合が原公園

配付苗木及び本数

春　季		秋　季	
配布苗木名	配布本数	配布苗木名	配布本数
ライラック（花色：白色）	75本	ライラック（花色：白色）	33本
ライラック（花色：紫色系）	100本	ライラック（花色：紫色系）	58本
ミツバツツジ	176本	キレンゲツツジ	101本
クロフネツツジ	343本	クロフネツツジ	144本
エゾムラサキツツジ	180本	エゾムラサキツツジ	71本
ドウダンツツジ	304本	ドウダンツツジ	149本
ヒノデツツジ	201本	ヒノデツツジ	122本
ヨシノツツジ	164本	ナツツバキ	175本
イチイ（オンコ）	98本	レンギョウ	59本
モクレン	192本	ヤエザクラ	58本
ヤエザクラ	149本	エゾヤマザクラ	38本
エゾヤマザクラ	105本	ブンゴウメ	85本
ブンゴウメ	201本	ブルーベリー	528本
アジサイ	82本	サクランボ	80本
ブルーベリー	1,151本	カシス	138本
クラブアップル（花リンゴ）	107本	ハスカップ	266本
アロニア（黒い実のナナカマド）	99本		
ブルーン	369本		
サクランボ	186本		
小　計	4,282本	小　計	2,105本
合　計			6,387本

(2) 緑化ツタ苗補助

家庭及び事業所等の壁面緑化を計画している札幌市民に対して、植込み予定数の半数（最大15本まで）のナツツタの苗を補助し、壁面緑化の推進を図りました。

	春　季	秋　季	合　計
補助件数	39件	28件	67件
補助苗数	266株	155株	421株
緑化延長	573メートル	329メートル	902メートル

(3) フラワーポットの貸し出し

町内会、商店街等の緑化活動に対して、身近な緑の創出と花壇造成の一助となるようフラワーポットを3年間無料で貸し出しました。(貸し出し初年度のみ花苗と培養土を提供)

区分	団体数	貸出数	備考
町内会	5	340基	白石区1, 豊平区2, 西区1, 手稲区1
自治会	1	50基	北区1
商店街	2	150基	北区1, 西区1
合計	8	540基	新規貸出分のみの合計数

2 緑化推進に関する普及啓発事業

(1) 第17回緑と花のフォトコンテスト

緑化意識の高揚と啓発を図るため、市内の公園・緑地での花と緑、自然とのふれあいなどをテーマにフォトコンテストを実施し、グランプリ1点、優秀賞6点(各部門3点)、入賞20点(各部門10点)を選考しました。

応募総数 149名 453点 四ツ切部門 85名 211点

サービスサイズ部門 64名 242点

表彰式 平成17年10月6日(木)さっぽろテレビ塔において、入賞者に賞状及び副賞を授与
入賞作品の展示 期間: 平成17年10月7日(金)~10月13日(木)

場所: 札幌地下街オーロラコーナー

(2) 第39回緑の絵コンクール

緑化意識の高揚と啓発を図るため、札幌市内の小学生・中学生を対象とした、緑をテーマの絵画コンクールを札幌市との共催により実施し、優秀作品100点及び優秀校2校を選考しました。

応募総数 小学校 43校 687点

中学校 16校 317点

表彰式 平成17年10月22日(土)KKRホテル札幌において、入賞者に賞状及び副賞を授与
入賞作品展示 期間: 平成17年10月21日(金)~10月25日(火)

場所: 札幌地下街オーロラコーナー





園芸に関するさまざまなご相談をお受けしています

「咲き終わった花の手入れはどうしたらいいの？」「肥料はいつ何をやればいいの？」こうした園芸に関するさまざまなご相談に、専門知識を持ち経験豊かな「緑の相談員」がお答えします。直接お越しになるか、お電話でもご相談をお受けしています。

豊平公園緑のセンター

豊平区豊平5条13丁目

開館時間

午前8時45分から午後5時15分まで

休館日

毎週月曜日（月曜日が休日の場合は翌日）
12月29日から翌年1月3日まで

緑の相談

相談日・時間

上記休館日を除く毎日

午前10時から午後4時まで

（正午から午後1時まで休み）

電話 811-9370

平岡樹芸センター

清田区平岡4条3丁目1-1

開館時間

午前8時45分から午後5時15分まで

休園日

毎週月曜日（月曜日が休日の場合は翌日）
11月4日から翌年4月28日まで

緑の相談

相談日・時間

4月29日から11月3日の間の、毎週水、木、土、日曜日 午前10時から午後4時まで（正午から午後1時まで休み）

電話 883-2891

百合が原緑のセンター

北区百合が原公園210番地

開館時間

午前8時45分から午後5時15分まで

休館日

毎週月曜日（月曜日が休日の場合は翌日）
12月29日から翌年1月3日まで

緑の相談

相談日・時間

毎週水、木、土、日曜日

午前10時から午後4時まで

（正午から午後1時まで休み）

電話 772-3511

<温室観覧料>

大人（高校生以上） 130円

中学生以下・65歳以上 無 料

（敬老手帳などをご提示ください）

みどりの図書

各センターでは、園芸、緑化、自然などに関する書籍や雑誌類をそろえ、自由にご覧になることができます。



最後になりましたが、平成17年度札幌市都市緑化基金への募金につきましては、(社)日本バーテンダー協会札幌支部様、(株)グリーンマイクハラダ様、八木正巳様、札幌リバティライランズクラブ様、第四銀行札幌支店様をはじめ、多くの皆様から多大なご寄付を頂戴いたしました。

また、設置しております募金箱にもたくさんの方の募金を頂戴いたしました。

この紙面をおかりして厚く御礼申し上げます。

皆様からいただきました募金は、金融機関に預け入れ確実に運用してまいります。誠にありがとうございました。

これからも、札幌市の「緑」が市民の生活の中から生まれ、「緑」豊かな街並が創出されますよう、札幌市都市緑化基金の事業を企画してまいります。

緑あふれる街づくりのため札幌市都市緑化基金の 募金にご協力をお願いします

—募金箱の設置場所—

百合が原公園・豊平公園・厚別公園・農試公園・川下公園・
前田森林公園・手稲稻穂公園・大通公園・円山公園・
平岡公園・モエレ沼公園・豊平川さけ科学館・
各区役所・札幌市環境局みどりの推進部・札幌第一ホテル

- 基金に関するお問い合わせは -

札幌市環境局 みどりの推進部 みどりの推進課

〒060-0051 札幌市中央区南1条東1丁目 大通バスセンタービル1号館6階
電話 011-211-2522

財団法人 札幌市公園緑化協会

〒060-0031 札幌市中央区北1条東1丁目 ニューウェンビル4階
電話 011-211-2579



編集・発行 財団法人札幌市公園緑化協会
〒060-0031 札幌市中央区北1条東1丁目6番地16 ニューワンビル4階
電話 011-211-2579

<http://www.sapporo-park.or.jp/>

すくすくみどりは、財団ホームページからダウンロードできます。



この冊子は、緑と地球環境保護のため
古紙100%の再生紙と大豆インキを使用しています。